

航空機リース 回復基調

コロナ禍やウクライナ情勢で打撃を受けた航空機リース業界が回復基調にある。2022年10月の国際線・国内線合計の世界の旅客需要は19年同月の7割超の水準に戻った。今後、アジアでも需要回復が見込めるからだ。22年末にアイルランドの航空機リース会社「ゴスホーク」の買収を完了し、航空機リース業界で世界2位に躍り出た三井住友ファイナンス&リース(SMFL)の敵岡淳執行役員(トランスポートেশョン事業部長)に今後の事業環境を聞いた。

—航空機需要をどう見ているのか。—
「22年10月時点の国際線・国内線合計の旅客需要が北米で19年同月の9割以上、欧州で同8割以上に回復している。その一方で、航空会社が経営効率化に向けリストラや旧型機の

デルチェンジの端境期

三井住友ファイナンス&リース 敵岡 淳氏
執行役員(トランスポートেশョン事業部長)

モデルチェンジ需要に商機



にある。ボーイングの需要増、旧型機の退場、ナローボディー機(単通路機)では『B737-800』から『737 MAX 8』、エアバスでは『A320XLR』から『A320neo』に変わりつつある。今後、新機種の導入が進むことで、航空機リースの需要が増える。ボーイングの需要増、旧型機の退場、ナローボディー機(単通路機)では『B737-800』から『737 MAX 8』、エアバスでは『A320XLR』から『A320neo』に変わりつつある。今後、新機種の導入が進むことで、航空機リースの需要が増える。

「世界に約3万機あり、そのうちB737-800が約5000機を占め、28年にかけて新型機に置き換わる見通しだ。ナローボディー機の市場規模はますます拡大していくと考える」

—買収したゴスホークもナローボディー機の運用を主力としています。—
「ゴスホークが保有する機材214

機材の78%をナローボディー機が占める。既存機保有分を含め1000台を国内外の投資家に売却する体制を整えた。燃費効率が良い新型機や流動性の高いナローボディー機の機材数拡大によるスケールメリット(規模効果)を生かした投資機会を国内外の投資家に届ける体制が整った。

脱炭素化支援強化がカギ

記者の目

SMFLは22年9月、航空会社向け航空機オペレーティングリースにカーボン・クレジットの販売を始めた。航空会社と連携して持続可能な航空燃料(SAF)の利用も促進している。持続可能な社会の構築に向けた機材の高まる中、こうした脱炭素化への取り組みを強化が今後の航空機リース事業拡大に向けたカギを握る。(編集委員・水嶋真人)